

漢字の指導に関する学習指導要領上の取扱いについて（抜粋）

○小学校学習指導要領（平成20年3月文部科学省告示第27号）

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

- (イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。
- (ロ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

〔第3学年及び第4学年〕

- (イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

〔第5学年及び第6学年〕

- (ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- (ア) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできること。
- (イ) 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。
- (ロ) 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。

○中学校学習指導要領（平成20年3月文部科学省告示第28号）

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕

- (ア) 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え，その他の常用漢字のうち250字程度から300字程度までの漢字を読むこと。
- (イ) 学年別漢字配当表の漢字のうち，900字程度の漢字を書き，文や文章の中で使うこと。

〔第2学年〕

- (ア) 第1学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読むこと。
- (イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き，文や文章の中で使うこと。

〔第3学年〕

- (ア) 第2学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字の大体を読むこと。
- (イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について，文や文章の中で使い慣れること。

○高等学校学習指導要領（平成21年3月文部科学省告示第34号）

第2 国語総合

- (ア) 常用漢字の読みに慣れ，主な常用漢字が書けるようになること。

別 表

学 年 別 漢 字 配 当 表

第 一 学 年	<p>一 右 雨 円 王 音 下 火 花 貝 学 氣 九 休 玉 金 空 月 犬 見</p> <p>五 口 校 左 三 山 子 四 糸 字 耳 七 車 手 十 出 女 小 上 森</p> <p>人 水 正 生 青 夕 石 赤 千 川 先 早 草 足 村 大 男 竹 中 虫</p> <p>町 天 田 土 二 日 入 年 白 八 百 文 木 本 名 目 立 力 林 六</p> <p>(80字)</p>
第 二 学 年	<p>引 羽 雲 園 遠 何 科 夏 家 歌 画 回 会 海 絵 外 角 楽 活 間</p> <p>丸 岩 顔 汽 記 帰 弓 牛 魚 京 強 教 近 兄 形 計 元 言 原 戸</p> <p>古 午 後 語 工 公 広 交 光 考 行 高 黄 合 谷 国 黒 今 才 細</p> <p>作 算 止 市 矢 姉 思 紙 寺 自 時 室 社 弱 首 秋 週 春 書 少</p> <p>場 色 食 心 新 親 図 数 西 声 星 晴 切 雪 船 線 前 組 走 多</p> <p>太 体 台 地 池 知 茶 昼 長 鳥 朝 直 通 弟 店 点 電 刀 冬 当</p> <p>東 答 頭 同 道 読 内 南 肉 馬 壳 買 麦 半 番 父 風 分 聞 米</p> <p>歩 母 方 北 毎 妹 万 明 鳴 毛 門 夜 野 友 用 曜 来 里 理 話</p> <p>(160字)</p>
	<p>愚 安 暗 医 委 意 育 員 院 飲 運 泳 駅 央 横 屋 温 化 荷 界</p> <p>開 階 寒 感 漢 館 岸 起 期 客 究 急 級 宮 球 去 橋 業 曲 局</p>

第三学年

銀區苦具君係輕血決研鼎庫湖向幸港号根祭血
仕死使始指齒詩次事持式實写者主守取酒受州
拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乘植申身神
真深進世整昔全相送想息速族他打对待代第題
炭短談着注柱丁帳調追定庭笛鉄軫都度投豆島
湯登等動童農波配倍箱焮發反坂板皮悲美鼻筆
水表秒病品負部服福物平返勉放味命面問役藥
由油有遊予羊洋葉陽樣落流旅西綠礼列練路和

(200字)

第四学年

愛案以衣位囿胃印英榮塩億加果貨課芽改械害
街各覺完官管関觀願希季紀喜旗器機議求泣救
給拳漁共協鏡競極訓軍郡徑型景芸欠結建健駿
固功好候航康告差菜最材昨札刷殺察參産散殘
士氏史司試兇治辞失借種周祝順初松笑唱燒象
照賞臣信成省清静席積折節說淺戰選然争倉巢
束側統卒孫帶隊達單置仲貯兆腸低底停的典伝
徒努灯堂働特得毒熱念敗梅博飯飛費必票標不
夫付府副粉兵別辺変便包法望牧末満未脈民無

	<p>約勇要養浴利陸良料量輪類令冷例歷連老勞錄</p> <p>(200字)</p>
第五学年	<p> 庄移因永營衛易益液演忘往桜恩可仮価河過賀 快解格確額刊幹慣眼基寄規技義逆久旧居許境 均禁句群經潔件券險檢限現減故個護効厚耕鉦 構興講混查再災妻採際在財罪雜酸賛支志枝師 資飼示似識質舍謝授修述術準序招承証条状常 情織職制性政勢精製稅責績接設舌絶銭祖素総 造像増則測属率損退貸態団断築張提程適敵統 銅導徳独任燃能破犯判版比肥非備俵評貧布婦 富武復復仏編弁保墓報豊防貿暴務夢迷綿輸余 預容略留領 </p> <p>(185字)</p>
第六学	<p> 異遺域宇映延沿我灰拡革閣割株干卷看簡危机 揮貴疑吸供胸郷勤筋系敬警劇激穴絹権憲源巖 己呼誤后孝皇紅降鋼刻穀骨困砂座濟裁策冊蚕 至私姿視詞誌磁射捨尺若樹収宗就衆従縦縮熟 純処署諸除将傷障城蒸針仁垂推寸盛聖誠宣専 泉洗染善奏窓創装層操蔵臓存尊宅担探誕段暖 </p>

年

值宙忠著片頂潮賃痛展討党糖届難乳認納腦派
拜背肺俳班晚否批秘腹奮並陞閉片補暮宝訪亡
忘棒枚幕密盟模訊郵優幼欲翌乱卵覽裏律臨朗
論

(181字)